不稔米を発生させるイネカメムシの被害にご注意ください

- イネカメムシは、基部斑点米を発生させる他、出穂期に籾の基部を加害することにより、**不稔米を発生**させます。
- 発生量が多く適期の防除が実施されていない場合は、**大幅な減収となる可能性**があります。
- 他の主要な斑点米カメムシ類と異なり、穂揃い期以降ではなく**出穂期に防除**することが重要です。

左：成虫、中：幼虫、右：基部斑点米

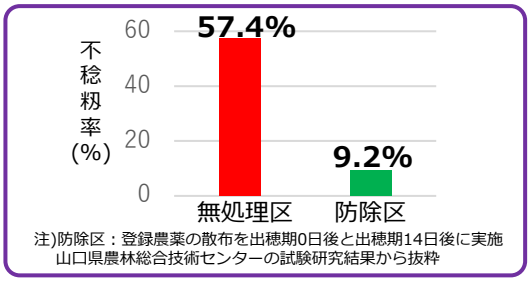

図　イネカメムシの不稔米に対する防除効果

被害を受けやすいほ場の特徴

- イネカメムシは、稲を好んで加害します。このため、防除が行われていないほ場（飼料用米ほ場等）、**周囲より出穂が早い品種のほ場や遅い品種のほ場は、集中加害**を受ける場合があります。

イネカメムシに対する防除対策

○情報のチェック

✓ 都道府県の病害虫防除所が発表する発生予察情報などの病害虫の防除に関する情報をこまめに確認し、**地域の発生状況を把握**しましょう。

都道府県の病害虫防除所のHP一覧　カメムシ類の防除

○圃場内への初期の侵入を把握

✓ 圃場の見回り、白色粘着板トラップの利用等により、**圃場への初期の侵入の把握**に努めましょう。
他の斑点米カメムシ類と異なり、イネカメムシは稲への嗜好性が高いため、畦畔や水田の周辺のイネ科雑草で確認されることは少ないとされています。

○防除の実施

✓ 過去から発生量が多く、被害が懸念される地域は、不稔を防止するため、**出穂期の防除を計画的に実施**しましょう。また、それ以外の地域でもイネカメムシの発生量が多い場合は、**出穂期の臨機防除**を実施しましょう。
さらに、防除後もほ場の発生状況を確認するために、ほ場をよく観察してください。

✓ イネカメムシの多くは、昼間は株元に潜んでいます。無人ヘリやドローンでの薬剤散布の際は、**株元まで薬剤が十分に届くように、通常より高度を下げつつ、速度も調整する**ことを心がけましょう。

✓ イネカメムシは、斑点米も生じさせることから、発生が多い場合は、斑点米の発生を防止するため**出穂期以降の２回目防除**も検討しましょう。

✓ 一部の地域では薬剤抵抗性個体が確認されていることから、**同一系統の薬剤の連用は避け**、ローテーション散布を実施しましょう。

農林水産省